

## 「劣っている部分こそがキリストの教会を造り上げる」

「神は劣っている部分をかえって尊いものとし、体を一つにまとめ上げてくださいました。」

(聖書協会共同訳 Iコリント12:24)

「あなたがたはキリストの体であり、一人一人はその部分です。」

(聖書協会共同訳 Iコリント12:27)

皆さま、4月1日より盛岡聖公会牧師に就任いたしましたステパノ越山哲也です。盛岡に赴任して3ヶ月が過ぎました。今月より教会報を発行することにしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

教役者人事異動に「〇〇〇司祭 〇〇 教会の協働」を命じるという辞令が最近多くなってきました。

神戸教区から東北教区に3年間出向されて、盛岡聖公会の協働牧師としてテモテ遠藤洋介司祭が4月より原則毎月第4日曜日にご奉仕してくださっています。

「協働」はその字の通り、「協力して働く」という意味です。そして「協働」は聖職のみが用いる言葉ではなく、教会の働きは誰が行うかを示す大事なキーワードなのです。教会の働きは神の民が共同体として行います。

神の民とは、キリストとその教会を表す信徒と聖職です。

(日本聖公会教会問答27・28参照)

東北教区の組織再編の大きな意義の一つは「協働」の輪を広げることにあると私は思っています。そのためにも皆さんお一人お一人のお力が必要なのです。

「力」は特別な能力ではありません。今必要な協働の力は皆さんがそこにいらっしゃるという「存在」を互いに忘れないで信頼していくことによって生まれてくる力です。

今その事を皆さんと一緒に共有したいと思います。

皆さんはそれぞれ年齢、生い立ち、価値観、健康状態も違います。ですから当然目に見える奉仕が出来る方は限られてくるのかもしれません。例えば、礼拝における奉仕、お掃除な

どでしょうか。思いがあつても諸事情の中面目に見える奉仕が出来なくてはがゆい思いをされている方もいらっしゃるかもしれません。

それでもいいのです。繰り返しになりますが、教会の働きの核となるのは「協働」であり、その協働を支えるのは「あなたがそこに確かにいる」という存在を私たちがお互いに信頼することです。

そして、忘れてはならない事は、すでに地上の生涯を終えられた信徒の方も天上の教会で今も私たちと一緒に「協働」しているのです。

信仰生活のゴールは、主イエス様が再びこの世に来られて真の平和な状態である「神の国」の完成です。そのゴールに向かって私たちは「協働」していくのです。

協働していくために必要なもの、そしてキリストの教会を造り上げていくものは何でしょうか。聖書によるとそれは「劣っている部分」であるそうです。私たち人間は肉の思いを持って生きています。肉の思いは弱く、もろく、破れだらけです。そして私たちはそれを隠そうとします。私自身もそうです。いい格好をしたくなる葛藤は常にあります。しかし、決まって長続きせず、息切れしかえって自分らしさを見失ってしまいます。そんな時に冒頭のみ言葉は大きな支えとなり、励ましとなります。劣っている部分があつてもいいのです。むしろ、教会を造り上げていくためには必要なことなのです。

どうぞ皆さんの弱さを主の御前に告白してください。私も告白します。どうぞご一緒に協働して参りましょう。

(司祭 ステパノ 越山哲也)